

1 主題名 高齢者への感謝 2 - (4) 尊敬・感謝

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目2 - (4)は、「生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する」ことをねらいとしている。

私たちは、周りの人々と支え合いながら生活している。家庭では、家族に支えられ、学校では、教師、友達、地域の人々などたくさんの人によって支えられている。その中でも、特に私たちの生活は、先人としての高齢者の努力や工夫によって成り立っていると言える。また、人生の先輩としてのさまざまな知恵に学ぶべき点も多い。だが児童は、生活を支えてくれる人々の行為や、高齢者の自分に対する愛情をあまり実感として感じとっていない。

そこで、自分に愛情を注いでくれる高齢者に対して、感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(3年:男2名 女子2名 計4名 4年:男3名 女2名 計5名)

祖父母と暮らしている児童が9名中7名と多い。祖父母はいるが、一緒に暮らしていないという児童が2名、2世代家族の中で育っているので優しい性格の児童が多い。兄弟も2~3人いて他者との関わりの仕方それぞれなりに身につけている。児童は、日頃おいしい料理を作ってくれる家族のことや家庭の様子を担当に話して進んで話してくるので、家族のことを好きな様子がわかる。だが、反面自分中心に物事を考えて発言したり、家族を不快にするような言葉を遣ったりすることもある。

本時では、生活を支えている高齢者の存在の大切さに気づかせるとともに、尊敬し感謝する気持ちを高めるために、2つの学年の合同の授業とする。なお、授業を進めるにあたっての座席配置は、学年の実態や普段の道徳の発言状況などを考慮し、3年生を前に4年生を後ろに並ばせて行うようにする。

(3) 資料について

茨城県道徳教育用自作資料 「わたしのおばあちゃん」

口うるさいおばあちゃんにうんざりしているゆき子。ある日、老人会の旅行におばあちゃんが行くことになった。ゆき子は、おばあちゃんがいなければ、伸び伸び過ごせると思い旅行に積極的に賛成する。しかし、おばあちゃんがいなくて次第に寂しさを募らせていく。こうしたゆき子の微妙な心の変化を捉えながら、高齢者に対する感謝の気持ちを育てようとする内容である。

本資料は、子どもたちのそばにいる身近な人に目を向け、尊敬と感謝の気持ちを子どもたちの心に醸成していこうとするものである。主人公のゆき子と同じような環境で生活している児童もいるので、ゆき子の気持ちに十分共感させていきたい。また、旅行を機に次第に気持ちを変えていくゆき子の心の内を明らかにすることにより、ねらいに迫っていくようにしたい。さらに終末で、祖父母からの手紙を各自読むことにより、祖父母の孫に対する愛情や思いを実感させたい。

3 教科・領域・学校行事との関連

月	学年	教科・領域等	題材・主題名	ね ら い
4 ~ 11	3年 4年	総合的な学習の時間	こんにやく作り	・作物の栽培を通して美和地区を見つめる ・栽培活動を通して、GTから勤労生産の厳しさや大変さを学び、収穫の喜びを味わう。
8 ~ 12	3年 4年	総合的な学習の時間	そば作り	
9	全学年	特別活動(学校行事)	運動会	・高齢者の方に招待状を書き、運動会の様子を見てもらい、学校での様子を知ってもらう。
10	3年 4年	道徳(本時)	わたしのおばあちゃん	・自分に愛情を注いでくれる身近な人々に対して感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を育てる。
11	全学年	特別活動(学校行事)	収穫祭	・お年寄りの方を招待して交流を図り、高齢者の生活について理解する。
11 ~ 12	3年 4年	総合的な学習の時間	こんにやく・そば作り	・こんにやく・そば作りでお世話になった方に感謝の気持ちを伝える。
3	3年 4年	特別活動(学校行事)	ありがとう給食	・学校生活の中でお世話になっている方との会食を通し、感謝の気持ちを育てる。

4 本時の指導

(1) ねらい

自分に愛情を注いでくれる高齢者に対して、感謝の気持ちをもって接していこうとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

資料、ワークシート、掲示用挿絵、祖父母からの手紙、移動黒板

(3) 展開

主な活動と発問	・予想される児童の反応 ・教師の支援 評価
<p>1 教師の子どもの頃の祖父母との思い出話を聞く。</p> <p>2 資料「わたしのおばあちゃん」を読んで、ゆき子のおばあちゃんに対する気持ちの変化について話し合う。</p> <p>ゆき子は、いろいろと指図するおばあちゃんをどう思っていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うるさいなあ。</li> <li>・言われなくても分かっているのだからほっといてほしい。</li> <li>・毎日毎日同じことばかり言わないでほしい。</li> <li>・2, 3日どこかに行ってほしい。</li> </ul> <p>ゆき子は、どんな気持ちで「おばあちゃん、ゆっくり行っておいでよ。」と言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあちゃんがいなければ、のびのびできるぞ。</li> <li>・わたしの面倒を見て、いつも家にいるのだから楽しんできて。</li> <li>・やったあ、これでうるさくなくなるぞ。</li> <li>・ちゃんとするから心配しないで。</li> </ul> <p>ゆき子は、おばあちゃんの部屋をそうじしながらどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さみしいなあ。早く帰ってこないかな。</li> <li>・口ごたえをしてごめんね。</li> <li>・おばあちゃん大好きだよ。</li> <li>・おばあちゃんの喜ぶ顔がみたい。</li> <li>・おばあちゃんは、旅行で疲れているかもしれない。</li> </ul> <p>「ゆき坊のことが心配で眠れなかったよ。」と言われたとき、ゆき子はどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばあちゃんはいつもわたしのことを心配しているんだ。</li> <li>・心配してくれてありがとう。</li> <li>・これからは、ちゃんとすることを聞こう。</li> <li>・おばあちゃんてやさしいな。</li> </ul> <p>3 今までの自分を振り返る。 おじいさんやおばあさんに優しくしていたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとやさしくすればよかった。</li> <li>・いやな気持ちになる言葉を遣ってしまった。</li> </ul> <p>4 祖父母からの手紙を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師同士の子どもの頃の祖父母との思い出話を聞くことにより、本時のねらいへの方向付けを行う。(T1, T2)</li> <li>・身近にいる祖父母との日頃のやりとりを想起させ、自分自身に重ね合わせて考えることができるようにする。(T1)</li> <li>・毎日毎日、次から次へと同じことを言われて嫌気がさし、開放感に浸りたいというゆき子の気持ちに共感させたい。</li> <li>・意見がでないときは、T2がおばあちゃんの指図する言葉を言うようにする。</li> <li>・児童から出た意見に共感しながら、しっかり向き合って聞くようにする。(T1, T2)</li> <li>・児童の意見を板書をする。(T2)</li> <li>・おばあちゃんが旅行に行けば伸び伸び過ごせると思い、旅行に積極的に賛成するゆき子の気持ちを際立たせるようにする。</li> <li>・3年生, 4年生交互に意見を聞くようにする。(T1, T2)</li> <li>・1日目と2日目, 3日目のゆき子の様子を場面絵を用意して捉えさせ、心の変化をつかませたい。</li> <li>・いつもそばにいてくれた人がいない寂しさと祖父母の存在のありがたさに気づけるように投げかける。(T1)</li> <li>・ゆき子の気持ちをワークシートに書くので、T1が3年生を、T2が4年生を机間指導する。 ゆき子がおばあちゃんの部屋をそうじしながらどんなことを考えていたのかを考えることができる。(発言内容・ワークシート)</li> <li>・わたしの頭をなでてくれたという祖母の愛情のこもった行動にふれたい。いつでもどこにいても孫のことを気遣うおばあちゃんの優しさや愛情を感じとらせるとともに、ゆき子の祖母への感謝の気持ちに気づけるような助言をする。(T1)</li> <li>・児童の意見を板書する。(T2)</li> <li>・これまでの自分の祖父母への接し方を振り返らせ、祖父母への思いを確かめさせる。(T1)</li> <li>・運動会で、祖父母が児童から手紙をもらって喜んでくれたことを伝える。(T2)</li> <li>・前もって書いていただいた祖父母からの手紙を、一人一人がじっくりと読めるように温かく見守る。(T1)</li> <li>・祖父母からたくさんの愛情を受け支えられていることに気づかせたい。 自分に愛情を注いでくれる高齢者に対して、感謝の気持ちをもつことができる。(つぶやき)</li> </ul>

5 家庭・地域との連携

自分の祖父母に手紙を書いたり、地域のお年寄りを運動会や収穫祭に招くなどの交流を図りながら、高齢者に対する敬愛の念を深める。